

10803医薬品製造業における死傷災害100事例 (-2017年)

No	年	月	発生 時	死傷災害事例	年 齢	事 故 の 型	起因物 (小)	労働 者規 模
1	2017	12	13~14	包装室内で、作業場所から次の作業場所へ荷物は持たずに移動中、安全靴を履き、通常の歩行だったが、躓き、転倒した。その際、膝を強打し、受け身がとれずに前額部を強打し、擦り傷と多少の流血も生じた。	55	2	417	100 ~ 299
2	2017	12	14~15	雑品室室内において、ビニール袋の解体積み下ろし作業時に、ビニール袋が積んであるスノコに右足の半分を乗せ作業を行っていた所、バランスを崩し、スノコに乗せていなかった方の右足半分が、高さ50mmのスノコ上から落ち骨折した。	59	1	379	100 ~ 299
3	2017	11	10~ 11	本所R棟1階荷捌き室（開梱室）において、開梱作業をしている時に、背後に立ててあったパレット（1×1.5m、重量40kg）に体が触れ、その反動でパレットが手前に倒れ、左足首に当たった。すぐに当所健康管理室にて受診し、痛みが引かなかった為、午後から病院を受診した。	62	6	611	1000 ~ 9999
4	2017	11	7~8	腕カバー付ゴム手袋を右手にはめて溶解槽底部の溶解確認作業で、溶解用攪拌器の停止スイッチを押して惰性回転している攪拌器シャフトをつかんで早く羽根を完全停止させようとしたところ、停止スイッチを押したつもりが攪拌器が停止しておらず、シャフトに手袋が巻き込まれて右手指を負傷した。	47	7	162	30~ 49
5	2017	11	13~ 14	研究管理棟2階男子更衣室から工場棟の渡り廊下を清掃時作業員の一人が洗剤を撒いていることに気付かず、足を滑らし、右足をひねった。	64	2	417	100 ~ 299

6	2017	10	10～ 11	医薬品製造工場の丸剤製造作業室にて、練っていた（練合）原料の固さを確認する際、停止すべき練合機（回転羽4枚付）が稼働している状態で手を入れ、回転羽が交わった時に巻き込まれ左手人差し指・中指を負傷した。	22	7	162	30～ 49
7	2017	10	16～ 17	第6工場で生姜選別機に選別原料を投入するため、投入台（高さ154cm）で作業を行っていたところ、囲いや手摺等が無く転落した。ヘルメット着用もなかった。	61	1	416	50～ 99
8	2017	10	15～ 16	製造現場4号館1階包装室にて、パレット積みされた製品（4段積、高さ150cm）をストレッチフィルムで製品全体をラップする作業において、4段目途中でストレッチフィルム（重さ2.2kg）を巻き、段ボール上段に一度置き、床に置いてあったストレッチフィルム置き用の容器を取ろうとしゃがんだところ、段ボール上段に置いてあったストレッチフィルムが落下してきて左側頭部（耳の上辺り）を直撃した。衝撃により左側頭部から流血した。	53	4	522	50～ 99
9	2017	10	10～ 11	当工場東館2Fフィルムコーティング準備作業において、計量済の移動式溶媒計量タンクを右手で押しながら、左手でハンドリフターを引っ張る形で移動していた。途中、計量タンクの動きが悪くなり立ち止まったところ、惰性で移動してきたハンドリフターの本体下部と床の間に左足を挟まれた。	19	6	362	100 ～ 299
10	2017	10	20～ 21	9号棟洗瓶充てん室にて、スモークテストを実施していた。少し腰に違和感が出たが作業を継続していた。帰宅後に少し腰の痛みを感じた為、週末は自宅でシップを貼って様子を見ていた。スモークテストは長さ約2m（重さ1kg弱）の筒状の器具をアイソレーターグローブにて数分待ち、10分程休んで繰り返す作業。後日腰痛軽減しなかった。仙腸関節炎と診断された。	33	19	921	300 ～ 499
				1期工場1F洗浄室（2）において、目視選別機の洗浄で使用す				

11	2017	9	16~ 17	るバケツを持って移動していたところ、室内の床面が濡れていたために足を滑らせて転倒し、後頭部を床に打ちつけて、打撲ならびに皮下血腫を負った、また、その際に首も痛めた。	64	2	416	100 ~ 299
12	2017	8	16~ 17	製薬工場内で細粒剤充填終了後の清掃作業中に、充填設備ホッパー内部の清掃を終え、専用の昇降作業台を使用し、後ろ向きに降りていたとき、踏み板を踏み外し、踏み板の三段目（床面から約80cm）から、後ろ向きに転落し、臀部を床に打ちつけた。	51	1	413	10~ 29
13	2017	8	19~ 20	B棟製造室で真空乳化釜の洗浄中、釜本体の1.9m上方から秒速2cmの速度で下降してくる釜蓋が閉じるまでの間に、釜本体に触らず釜外周にホースで水をかけて洗うことになっているが、被災者は釜の縁が汚れているのを発見したために、釜蓋が下り切るまでに汚れを落とせると思って手洗いを始めた。ところが、着用していたゴーグルが曇っていて視界が悪く、下降してくる釜蓋と釜本体の間に左手指先を挟まれ、左中指・示指・拇指を開放骨折した。	25	7	341	300 ~ 499
14	2017	8	10~ 11	資材をフォークリフトで屋外から倉庫へ運ぼうとしたが、先行のフォークリフトがシートシャッターの中にいたので、手前に停止し待機していた。先行のフォークリフトが、シートシャッター内のクイックセーバーのセンサー異常により倉庫側が開かず、外側のセーバーを強制開放した。シートシャッター内のフォークリフトが、一旦屋外に出るため、積載状態で前進走行を行なった。これにより、屋外で待機していた被災者のフォークリフトに衝突した。当初、体に異常を感じなかったが、その後、痛みが出てきた。	44	3	222	—
15	2017	7	16~17	製剤工場内の錠剤自動選別機切替最終確認で、自動選別機の精度確認をするため機械の正面に移動しようとした際、自動選別機とプリンターを繋いでいる配線（コード）に右足が	59	2	379	300 ~

				引っかけ、その場に転倒した。転倒の際、両手を床についたものの、右手に体重が掛かり手首をひねった。				499
16	2017	7	16~17	入浴剤の製造棟2Fで部品組み立て室から洗浄室へ向かう際、早足で歩いたため、足がからみ前のめりに転倒し、左膝を床面にぶつけた。特に床面に段差があるわけでもなく、濡れていたり、粉等の落下物もなく、不安全的要素はなく、ただ通路を歩いていた状況だった。転倒した瞬間を目撃した者はいない。	56	2	417	50~ 99
17	2017	7	17~18	薬液調整室にて一人で作業中、調整タンクに薬液を戻そうとした所加圧停止の安全確認を忘れ加圧中の調整タンクの蓋クランプを外してしまい、蓋が圧力で吹き飛び顔面に当たってしまった。鼻骨、眼底、上前顎骨折による。全治一週間。	20	6	319	100 ~ 299
18	2017	6	8~9	工場2課においてラインテスト実施中、ラインオペレーターの要員応援者として出勤した。展膏機から裁断機への横引きコンベアのロールにライナーが巻きついたために、ライン稼働をしたままで右手でライナーを取り除こうとし、コンベアに挟まれた。	53	7	163	500 ~ 999
19	2017	6	14~15	内服固形剤原料供給用ポーレタンクの自動洗浄後、フォークリフトにてポーレタンクを移動し、2段ステップを設置して内部の洗浄度確認と上部蓋の取り付けを行った。作業完了後、ステップを降りる際、体の向きを変えずにステップ1段目の踏台がない方向に移動した為、足を踏み外して転倒した。その際、転倒方向にフォークリフトが停止しており、フォークリフトの爪の間に体が入り、バックレストに頭部が接触し挫創した。	44	1	371	300 ~ 499
20	2017	5	8~9	綿棒消毒剤包装室で、作業台上のものを取ろうと作業台に近づく際に、平らな床面だが安全靴で滑りが悪くて躓いた。そのまま前のめりになり勢いがあるまま作業台の角で頭を打ち、同	27	2	416	100 ~

				時に倒れ込んだ際に強く膝を打った。				299
21	2017	4	10~ 11	本社工場内にて包装作業中、製品が入ったコンテナを持ち上げ移動させようとした際に腰を痛めた。	42	19	611	100 ~ 299
22	2017	4	10~ 11	工場内の包装作業室において、容器にラベル貼付する作業をしていた際に、カゴ（1カゴに2L充填済み容器16コ）6段積みを搭載した平台車を移動させようとして最上段のカゴを自分の方向に引っ張ったところ、平台車は動かないままにカゴが自らの方向に倒れ足下に落下した。	38	4	379	50~ 99
23	2017	3	0~1	蒸気元バルブが操作しにくい場所（タンク防油堤の向こう）にあり、そのバルブを操作する為に防油堤の上に右足をかけ、乗り越えようと体重をかけた際に右足首を捻り、右足第1~3中足部を負傷した。	57	19	419	100 ~ 299
24	2017	2	14~15	本所NS棟1階分面室の廃液コンテナへ5Lポリバケツに入った廃液を廃棄後、空のポリバケツを左手で持って早歩きでNS棟1階測定室に戻る際に、廊下で躓き転倒した。	61	2	419	1000 ~ 9999
25	2017	2	9~10	洗びん室で、洗びん作業中に、容器を入れるケースを床から1m位持ち上げて台にのせる時に腰をひねって痛めた。	48	19	611	10~ 29
26	2017	2	18~19	第四製造棟での作業を終えて第三製造棟分注室へ向かおうとして、第三製造棟と焼却炉の間を歩いていた際に側溝と側溝を繋ぐ蓋のない枳に気が付かず右足を落とし、脛に裂傷を負った。脛の皮膚がえぐれ、骨が幾分か見える状態だったので、病院にて裂傷部を縫合してもらった。	28	3	418	30~ 49
27	2017	2	16~17	洗ビン室で作業中、ライン作業が一旦停止となった合間にトイレ休憩し、作業を再開するために作業場所に戻る際に床に置いていたビニールシート（廃材）の端に足を取られ、転倒した。	58	2	529	30~ 49
				製造工場内で、エプロン加工機（ダイカットロール）に紙エプ				

28	2017	2	11~12	ロンの生地を入れ込み中、誤ってエプロン生地と一緒に右手人差し指と中指を挟まれ負傷した。	26	7	163	10~ 29
29	2016	12	10~11	充填作業中、設備異常が発生したため、ヒーター棒の交換作業を行った。右手にジョッキを持った状態で架台に上がろうとしたところ、交換するヒーター棒の電源がONの状態に気づき、慌てて無理な体勢で下りようとしたことでバランスを崩してしまった。その時に架台を?もうとしたが、ジョッキを持っていた為そのまま踏み台に落下し、胸部、臀部を受傷した。	42	1	371	100 ~ 299
30	2016	12	14~15	輸液剤生産ラインの容器シート印刷工程において、設備から異音がしたので、タイミングカム軸の安全カバーを開けて異音部位がどこなのか確認を行っていた際、無塵衣の手甲がカムに触れ右手首側から二の腕にかけてタイミングカム軸に巻き込まれ被災した。	54	7	169	1000 ~ 9999
31	2016	12	8~9	工場敷地内にて安全衛生の確認のために別棟に向かってアスファルト路上を歩行していた。路面は除雪されているものの、早朝の低温で凍結し圧雪アイスバーン状態であった。そのため安全靴が滑り、バランスを崩して尻もちをついたときに骨折した。	59	2	719	30~ 49
32	2016	10	15~16	分級・篩過室において原料供給装置であるサークルフィーダーで原料の詰まりを除去していた。電源をOFFにしない状態で点検口から、手を入れて原料の詰まりを除去していた際、排出口と回転羽根の間で左手小指を挟まれ、負傷した。	37	7	169	300 ~ 499
33	2016	10	23~24	工場下設備で一人で作業中、ドラム缶から反応釜へ薬品を投入していたところ、ホースとホースのつなぎ目がはずれ、顔首肩の右側にかかり、火傷を負う。	21	12	419	30~ 49
34	2016	10	9~10	開発品製造施設作業場でマスクを着用し、ダイヤフラムポンプにて原料を仕込み中に、排気ダクトの開度が不十分であったた	30	12	514	50~ 99

				め、原料の蒸気により目が痛くなった。				
35	2016	10	10～ 11	<p>廃液乾燥炉の燃料として木タールピッチを使用していた。木タールピッチは低温で固化するので、燃料タンクへ移送するため必要に応じて加温している。木タールピッチ入ドラム2本を加温していたが、右側のドラム下の火が消えていたため、一斗缶から廃メタノールを継ぎ足そうとした時、一斗缶の天面がとび、同時に中のメタノールが飛散して足にかかり引火、左足大腿を火傷した。</p>	35	11	512	10～ 29
36	2016	10	16～ 17	<p>遠心機室で遠心ボウルの組み立て作業時に、手袋を着用しロックリングに締めつける工具をセットしようとした際、手が滑り、高位置から工具を落としそうになった。反射的に工具を受け止めようとしたところ、工具とロックリングの間に中指、薬指、小指の三本が挟まった。</p>	47	7	364	100 ～ 299
37	2016	9	17～ 18	<p>1階EPSラインにおいて、裁断機で裁断味の確認を終え、踏台から降りようとした際、足は裁断機の方を向き、身体は下降方向を向いていた。降りた際に右膝に痛みを感じ立てなくなった。</p>	29	19	921	500 ～ 999
38	2016	9	18～ 19	<p>業務終了後、従業員出入口の階段の1段目を下りる時に、他の従業員と会話をしていた為に、足を踏み外し落下した。その際、左膝下を裂傷し、胸部も打撲した。</p>	47	1	413	100 ～ 299
39	2016	9	9～ 10	<p>セペ自動充填機の中栓整列ターンテーブル箇所の整列しなかった中栓を発見し、取り除こうとして機械を停止しないまま手で作業してしまい、機械に挟まれた。</p>	27	7	169	30～ 49
40	2016	9	8～9	<p>研究所にて建物メンテナンスの為、所内の椅子の移動作業に従事していたところ、腰部を痛めた。</p>	37	19	379	50～ 99
41	2016	8	14～ 15	<p>4tトラックを運転して配送センターからプラットホームに到着。製品を収納したカゴ台車を積込むために車載のステンレス製渡し板をプラットホームに倒しこむ際に、支えていた手が滑</p>	62	6	221	10～ 29

				り、板が左足すねに当たり打撲・裂傷を負った。				
42	2016	8	15～ 16	女子更衣室において、勤務終了に伴い作業服から私服に着替える際、脱衣室と着衣室の間の間仕切りをまたごうとして足が仕切りに引っ掛かり、転倒した。	53	2	418	100 ～ 299
43	2016	8	4～5	駐車場から入口に向かう途中の階段を上りきった踊り場で、バランスを崩し左足がぐらついてしまい、あわてて立ち直そうとしたが、勢いあまって前方へ転倒してしまった。	59	2	921	100 ～ 299
44	2016	7	16～ 17	原料・資材を運ぶ、固定型の簡易リフトを使って、1階から2階に物を運ぼうとしていた。積み方が不安定であったため、2階に上がりきると同時に、荷物の一部が、リフト台と2階天井部分ではさまった。粉入りの袋物であったので、それを取り除くため、1階から脚立を立て、作業をしていた。2階部分からも取り除く作業をしていた。その時に、リフト台が落下し、1階で作業をしていた被災者が、右頭部・額・右手を負傷した。	48	6	214	10～ 29
45	2016	7	9～ 10	廃棄物保管所で、廃棄物を運搬中に廃棄物の取っ手部分が床面にあった為、足を引っ掛け転倒した際に、地面に左手をつき手首を骨折した。	79	2	417	100 ～ 299
46	2016	7	14～ 15	倉庫にて作業中、原料にヒモを掛けていて、そのヒモが切れてしまい、勢いよく後ろに飛んでしまい左手を地面について負傷した。	46	19	379	50～ 99
47	2016	7	8～9	更衣室において、更衣中に、扉が開きドアが右足第4指にぶつかった。	28	6	418	50～ 99
48	2016	6	10～ 11	室内通路を移動中、消毒液と水で濡れていた床で滑り転倒し、臀部を強打した。立ち上る際に再度足を滑らせ転倒。その際、受け身を取った時についた左腕を骨折した。	37	2	417	100 ～ 299
49	2016	6	9～	医薬品の製造作業室内で練合機による造粒作業中、練合物のかきとり排出時に寸動で攪拌羽根を動かし惰性で動いている中に	19	7	162	500 ～

			10	手を入れ、練合機の攪拌羽根と本体内壁との間に挟まれ、左手指を負傷した。				999
50	2016	5	11～ 12	製造室で、リフト付攪拌機を引いて移動している時に、リフト付攪拌機を一時停車させて車輪ストッパーを右足で踏んだ際、床面に緩やかな傾斜があり、攪拌機のモーター部分が高さ2.7mの位置にあった為、荷重がかかった。倒れるリフト付攪拌機を身体で支えようとした為、骨折負傷した。	20	6	391	300 ～ 499
51	2016	5	9～ 10	X線分析装置の稼働準備作業として、装置に液体窒素を投入する作業を行っていた。この際に、液体窒素の入った約8kgの容器を脚立の上から持ち上げようとして、腰を痛めた。	29	19	911	100 ～ 299
52	2016	4	10～ 11	ベルトコンベアの緩みを確認中、ローラー部に欠損があった為、新しいローラーと交換した後ベルトの動作確認中、左手を巻き込まれて骨折した。	58	7	224	100 ～ 299
53	2016	4	16～ 17	印刷室において、印刷用版の汚れを低速運転で拭き取っていたところ、拭き取りに使用していたペーパータオルが版胴とセンサードラムの上に巻き込まれ、その際に左手人差し指と左手親指も巻き込まれた。	26	7	166	100 ～ 299
54	2016	2	15～ 16	ロックリングレンチをかませようとして、手を滑らせつま先芯入り長ぐつのすきまから、右足小指に落下した。	26	4	521	100 ～ 299
55	2016	2	16～ 17	工場裁断包装室で、テープ剤裁断機のロールを交換し、薬剤シートを通して調整をしていたところ、薬剤シートが付着したままコンベアへ流れてしまったため、薬剤シートを取ろうと右手を入れた際に、ロールとコンベアの中に中指・薬指・小指を巻き込まれてしまった。	46	7	224	100 ～ 299
56	2016	1	16～ 17	工場作業室にて隣の機械へ移動しようとしているとき、早歩きで移動をしたら左足を挫いてしまった。	56	19	921	500 ～ 999

57	2016	1	9～ 10	製品移送コンベア先のパレットを回収する為、その両側にある地上約60cmの架台を使ってまたいで横断した。またいだ架台から地面に降りる際に、手前にある設備をよけ、奥に着地しようとしたが、左足をひねり負傷した。	58	19	921	300 ～ 499
58	2016	1	9～ 10	工場において、屋外に設置されているポンプのオイル交換を行う際、ポンプ確認作業のためポンプ付近の排水溝を通ろうとグレーチングに足を乗せたところ、グレーチングが錆びて腐食していたため右足がグレーチングを踏み抜き、排水溝に右足が落ちそうになってバランスを崩した。咄嗟にパイプに掴まった際に、右胸を負傷した。	47	9	418	50～ 99
59	2016	1	12～ 13	ソフトカプセル製造工程において、ソフトカプセルをタンブラーから取り出す作業をしていた。タンブラーの中に脱油用の布が入っており、入口付近でその布が詰まってしまったため、機械稼働中に手を入れて取り出そうとしたときに布が絡んでしまい、タンブラーが回転していたため手を捻ってしまい、負傷した。	41	19	169	100 ～ 299
60	2016	1	0～1	原料溶解準備中、8段積み（32袋積み）パレットの最上段の1袋（20kg／袋）を持ち上げようと、上半身を後ろにそった。その際、腰に違和感を覚えた。	35	19	921	100 ～ 299
61	2015	12	22～ 23	パレタイズロボットが製品の積み付けの際、不具合を起こし、製品がコンベア上に落下しているのを発見した。電源を切り、積み付け状態を直し、落下した製品を拾い、抱えた状態でコンベア上を移動した。その際、中2階の架台に頭をぶつけた。	34	2	224	300 ～ 499
62	2015	12	10～ 11	洗い場で洗浄のため容器を運ぶ時、洗い場の床が濡れていた為、滑って右手をついて骨折した。	72	2	417	1～9
			13～	包装機械にて包装中、ベルト駆動部チェーンより異音が発生した。機械を動かしながら、チェーンカバーを外しスプレー給油				300

63	2015	12	14	を行い、チェーン周りに飛散した油をガーゼにて取り除こうとして、チェーン部にガーゼが巻き込まれ、右人差し指先端も巻き込まれた。	58	7	169	～ 499
64	2015	12	9～ 10	クリーンルーム内、コニカルドライヤー作業のための架台上で、コニカルドライヤーのマンホールリング固定ボルトを締めていた。スピナーハンドルにソケットを装着したボックスレンチを使っており、ソケットの掛が甘い状態で力を込めて引いた拍子に、ソケットが外れ、バランスを崩して1.8mの架台から転落した。	39	1	364	10～ 29
65	2015	10	15～ 16	構内の階段で荷物を降ろしている途中、左足を捻ってしまった。	26	19	413	50～ 99
66	2015	10	17～ 18	工場内造粒室において、トローチ剤の製造工程の造粒作業が終了し、この作業室の床面を散水して清掃していたところ、足をすべらせて転倒し、後頭部をコンクリートの床面に打ちつけて打撲、また帽子のプラスチック製留め具で切傷した。	57	2	416	50～ 99
67	2015	10	10～ 11	事務所天井の蛍光灯を交換する為、机の角に左足をかけたところ、机がぐらつき落下、転倒し、左足亀裂負傷。	51	1	391	30～ 49
68	2015	10	7～8	被災者は、出勤し作業場に向かった時、後から責任者が来るのに気づき、前日作業した捺印指図書サインをもらおうと中通路で声をかけ、責任者はサインをするため開けかけた扉から手を離し、捺印指図書が置いてあるブースに移動した。被災者は、責任者の所へ行くため通路を小走りで向かった際、安全靴つま先が床と接触し、躓き、前のめりに転び、閉じかかっている扉の縁に右眼瞼の上をぶつけた。	58	2	417	300 ～ 499
69	2015	10	13～ 14	消防自動車の月次点検を終了し、車庫入れのため1人が降車し、後進誘導を行った際に、車庫手前に設置してあるポールと自動車の後方に、誘導者の左足膝上から大腿部を挟めた。	35	7	231	100 ～ 299
				工場内の製品充填ラインにおいて、原料交換作業のため原料の				100

70	2015	9	14～ 15	入ったドラム缶のフタのとめ具（バルブ）を他のドラム缶に移そうと持ち上げた際に腰を負傷した。	38	19	921	～ 299
71	2015	9	15～ 16	試験室において、試験作業のためホールピペットを安全ピペッターにはめ込んで使用していたが、嵌合が悪かったため、再度、力を入れてはめ込んだ際、ホールピペットが割れ、左人差し指にガラスが刺さり、左人差し指伸筋腱を断裂した。	25	8	379	500 ～ 999
72	2015	8	6～7	薬品棟プラスター塗工工程にて、基材に塗布する膏体（粘着剤）を攪拌機で製造中に原料を投入するため、攪拌機の向かい側に設置している投入原料用の3段棚の下段にあるステンレス容器の蓋を外そうと棚の左側に立ち右足を踏み出し中腰の姿勢からさらに右膝を深く曲げた際、右膝から下の骨が外れた違和感を覚え、立ち上がろうとすると足が伸びなくなっていた。	27	19	921	100 ～ 299
73	2015	7	14～ 15	鉄工所で、鉄パイプの加工作業を一人で行っていた。ねじ切り機に鉄パイプをセットし、スイッチを入れてねじ切り加工を行った。ねじが切れたので、左手で機械のスイッチを切ったところ、その直後に右手薬指に激痛が走り負傷した。	50	7	159	100 ～ 299
74	2015	6	9～ 10	繁盛期にともなう1日の生産数アップでの手作業でのスピード化、当日出荷数の増加、昼休み15分カット、残業休日出勤により少しずつ強くなる両腕のしびれがあった。	49	19	921	30～ 49
75	2015	6	16～ 17	生産終了後、ラインサイドに設置してある秤の電源コードに足が引っ掛かり転倒し、手と足腰を床に強打した。	66	2	417	10～ 29
76	2015	6	11～ 12	PTP包装室（医薬品包装）の包装ラインにてピロ包装機オペレーターの作業中に、安全カバーを開けて、ガイド調整をしようとした際に、ラインを停止せず稼働している機械で指を挟まれ負傷した。	45	7	169	300 ～ 499
77	2015	6	1～2	事務所出口から外へ出る時、ガラスドアが強風で開けづらくなっておりガラス部分を強く押したところ、ガラスが割れ顔、	31	4	418	50～ 99

				右手甲、左足首にガラスが刺さり負傷した。				
78	2015	5	16～ 17	取引先の担当者との話が終わり足場としていたパレットから降りる際、急ぎの仕事があったため直接地面に飛び降りた。降りた先に窪みがあったことから右足をひねった。	47	1	522	50～ 99
79	2015	5	18～ 19	倉庫に設置している冷凍コンテナの不調により、コンテナ上にある室外機の稼働状況を確認する為、上方を見ながら車止め上を歩行していた際、足を滑らせ転落した。	45	1	418	100 ～ 299
80	2015	5	10～ 11	乾式造粒室に付帯されているローラコンパクターで、機械に付着した粉の払落し作業を行っていたところ、払落し箇所にあるスクレーパーに指先を挟まれ、左手中指を負傷した。	28	7	169	300 ～ 499
81	2015	4	9～ 10	救急講習で、搬送実技中に、疾病人に見立てた仰向けに寝ている体重約70kgの人を、体位を起こしながら、後から勢いよく力を入れ引っ張り移動させようとしたところ、バランスを崩し、激しく床に尻もちをつき、胸椎を圧迫骨折した。	53	19	999	100 ～ 299
82	2015	4	9～ 10	機械部品の組付動作作動を確認中、手に持っていた板状の部品（50cm×25cm）が落下し左足の甲を受傷。	42	4	521	100 ～ 299
83	2015	4	15～ 16	2階女子食堂から1階仕上室へ行く途中の階段を1段抜かして降りていたところ足を踏み外して転倒し右足首を負傷した。	20	2	413	100 ～ 299
84	2015	3	15～ 16	製造所の天井上に空調機器の点検に行く時、不注意で梯子を踏みはずしたため落下した。	52	1	371	50～ 99
85	2015	2	8～9	器具保管室へ空容器（20L）を持って移動中、バランスを崩し転倒し、床面に右ひざを打ち付け負傷した。	26	2	611	300 ～ 499
				三方フィルム包装のラインで、半製品をベルトの上に出す作業中。ロット交換の待ち時間にラインが止まっていたので、パ				100

86	2015	2	13～ 14	レットに積んでいる半製品の入ったカートンをローラーの上に供給していた。その後、ラインが再稼働する際に、元の作業場所へ戻ろうとして、床のパレットにつまずき転倒し、左肩を床で打ち骨折した。	61	2	379	～ 299
87	2015	2	16～ 17	工場休憩室のソファを雑巾を用いて清掃作業中、ソファの脚に自分の左脚を引っ掛けてしまい転倒し、右ひざを打撲した。	52	2	419	300 ～ 499
88	2015	2	9～ 10	原料の入った200L樹脂ドラムをドラムポーターで運搬するため、ドラムポーターの爪に乗せようと力を入れた際に腰をひねり腰を痛めた。	28	19	362	100 ～ 299
89	2014	12	6～7	製造工場の下駄箱にてスリッパを履き移動しようとした際、転倒し右上腕骨を骨折した。	50	2	417	100 ～ 299
90	2014	12	11～ 12	製造室にて、製造終了後の掃除の時に、集塵機に取り付けてあるフィルターを交換しようとした際、踏み台の中心に足を乗せなかった為、バランスを崩し落下してしまいました。市の際右足に体重がかかり足を捻り負傷しました。	66	1	379	30～ 49
91	2014	12	10～ 11	更衣室のロッカーに忘れた携帯電話を取りに行き、自職場に戻るため構内通路を小走りで移動中、転倒し左大腿骨頸部を骨折した。	51	2	719	300 ～ 499
92	2014	11	0～1	小分け包装ボトリング工程において、詰め込み前の工程でカプセル漏れチェック作業があり、容器としてステンレス製サイロを使用しており、サイロの蓋をサイロ側面のフックに掛ける際に片手で作業しフックと蓋の取っ手の間に手を掛けたままにしていたため、左手小指を挟み骨折した。	34	7	391	100 ～ 299
93	2014	11	9～	キャスターの付いた調整タンク（約270kg）を修理するためスロープを移動していた際、スロープの傾斜が大きく変化する部分でタンクのバランスが崩れタンクが転倒し、その際タンク下	34	7	321	300 ～

98	2014	9	15～ 16	外用液剤工場充填室で、うがい薬の充填作業中に充填済のボトルが転倒して液がこぼれた。ターンテーブル下を清掃しようとしたところ、惰性回転状態で完全停止していなかった為、搬送コンベアとターンテーブルの隙間に左手を挟み負傷した。	31	7	224	100 ～ 299
99	2014	9	13～ 14	荷物搬入口にて、化粧品の中身が入ったドラム缶（約200kg）を丸台車へスライドさせて載せる為に、台車を動かない様に両手で押さえる作業中、台車底部の隙間に下から差し込んでいた土台を、ドラム缶が台車に載る時に抜くのが遅れ、右示指をドラム缶と台車の間に挟まれ被災した。	46	7	362	50～ 99
100	2014	9	14～ 15	アルコールをろ過する為に、タンクにろ過フィルターを取付け、圧力（0.8kg/?）をかけてろ過を実施した。ろ過が終了し、タンクに付いている圧力供給用バルブを閉じてフタを開けたところ、圧力が完全に抜けていなかったため、フタが飛び顔に当たった。	41	15	321	100 ～ 299

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.html(職場のあんぜんサイト)

参考：[労働災害の分類の概要](#)

[各小業種における死傷災害100事例（-2017年）](#)に戻る。